

鈴木 寛 (兵庫教育大学教授)

音痴を治す (8)

前号で述べた

- ・自分の演奏のどこがおかしいか
- ・どうおかしいか
- ・どう直せばよいのか

以上3点が克服できれば音痴は治ることは当然のことでしょう。

音痴を治すもう一つの道は「ヴォイス・トレーニング」です。特に音域の狭い人に有効な方法です。これは耳の訓練と言うよりも声帯や呼吸に関わる筋肉の強化により発声をもっと正確にしようとするもので、運動療法です。

歌っている間に調や音階を見失ってしまう音痴は殆どこのタイプです。

彼らの殆どが長く伸ばす音でピッチが保持できないか、特定の音程の上下の幅が同じでなく、昇りか降りのどちらかの幅が狭い(広い)ことにより次第に調や音階の認識をあいまいにしまうことから客観的には「調子外れ」の音痴として勇名をはせてしまうのです。

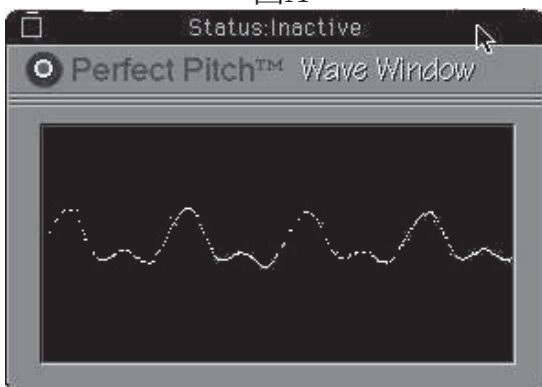
落ち着いて冷静に指導すれば(練習すれば)必ずなおるこの種の音痴治療に有効なハイテクはオシロスコープかシンクロスコープでしょう。

もし手元にそのような高価な機材が無くても Meuseum の WaveWindow のようにコンピュータ画面で自分の波形が目視できるソフトを利用することができます。

この場合問題なのは画面の波形ではどんなピッチが出ているのかはわからないということです。確かに高音部では波は細かく表示され、低音部ではやや粗い波形が表示されます。それでもピッチ認知のための情報は殆どありません。

例えば下の図Aと図Bではオクターブ近く離れた声なのですが殆どどちらが高いのかさえわかりません。

図A



図B

